

(熊谷市) 記者クラブ取材情報

事業の名称等

平成22年度熊谷市文化功労者・教育関係職員表彰式

1. 実施日時等 平成 22年11月 3日 (水・祝) 午前 10時00分
午前 11時30分頃まで
2. 会場・主催地 熊谷市立大里生涯学習センター
3. 主催者・関係者
- (1) 団体名等 熊谷市教育委員会
- (2) 代表者名 教育長 野原 晃 TEL 048-524-1111 内線 389
4. 事業内容 式典。文化功労者3名 飯塚誠一郎氏 (学校教育 74歳)、故 中山一男氏 (体育 80歳)、間瀬繁雄 (芸名 野呂修平) 氏 (文化 76歳)。
教育関係職員表彰者 46名 { 学校教職員 37名
(熊谷市内在勤15年以上で 学校医 7名、公民館職員 2名
勤務成績が良好であるもの)
5. 目的・理由 文化功労者：教育・学術・文化・体育の振興について特に功績が顕著である方を表彰する。
教育関係職員表彰：熊谷市内在勤15年以上で勤務成績が良好であるものを表彰する。
6. 経緯・経過
7. 影響・効果 文化功労者表彰：文化活動を行っている者の励みになり、文化活動の振興に資することになる。
教育関係職員表彰：教育関係職員の励みになり、教育の振興に資する。
8. この事業の実施による特記事項
- (1) 県内の状況
ア. 県内で初めて イ. 県内で 番目 実施市別紙のとおり
- (2) 他市が実施している事業に比べて本市の特色
- ・他市と同じ

※ 資料の有無 (有) 無)

担当課 熊谷市教育委員会 社会教育課 担当者 高柳、須藤

連絡先 TEL 048-524-1111 内線 394 shakaikyoiku@city.kumagaya.lg.jp

熊谷市文化功労者

飯塚誠一郎（74歳）

熊谷市下奈良

氏は、昭和34年3月に埼玉大学教育学部を卒業後、国公立小学校の教諭、副校長、校長を務めた後、埼玉県教育局大里教育事務所指導課長、同指導部指導第一課主席指導主事、主幹、課長を歴任し、続いて同生涯学習部次長、部長を務めました。その後、北教育センター参与を務め、平成10年9月まで通算40年間にわたり、終始一貫、教育者として職務に精励し、熊谷市はもとより、埼玉県の教育の向上に貢献しました。

平成10年10月からは、本市教育委員会教育長として、平成17年12月まで、本市の学校教育、社会教育の振興に、日夜精励しました。

特に、平成13年度には、不登校解消対策として、さわやか相談室、適応指導教室を充実させ、3年間で不登校の児童生徒数を半減させるなど、大きな成果をおさめました。

また、学力向上を目指し、平成14年度から2学期制を導入、平成16年度にはノーマライゼーションの理念に基づき埼玉県が創設した支援籍制度を、他に先駆けて実践し、特別支援教育の充実を図りました。さらに同年熊谷市をメイン会場として開催された第59回国民体育大会（彩の国まごころ国体）の成功に向け、中心となって尽力しました。

このように、優れた人格と卓越した指導力により本市の教育の向上、スポーツ、文化の振興に寄与した功績は誠に顕著であります。

熊谷市文化功労者

(故) 中^{なか}山^{やま}一^{かず}男^お (80歳)

熊谷市本石

氏は、戦後禁止されていた剣道が昭和27年に解禁されると、市内の剣道愛好家たちとともに熊谷剣道連盟を設立、要職を歴任し、連盟の中心的存在として活動を続け、日本古来の武道である剣道の普及、振興に大きく貢献しました。

昭和38年には、熊谷武道振興会の創設に参画し、振興会武道大会を38回にわたり開催、本市における武道の振興に大きく寄与しました。

また、市立荒川中学校、県立熊谷西高校、熊谷女子高校、熊谷商業高校や本市教育員会が主催する「少年少女剣道教室」、熊谷警察署の「少年剣道教室」において、剣道指導者として情熱をもって指導にあたり、剣道を通じた青少年の健全育成や体力の向上に尽力し、多くの剣道愛好家を育成しました。

さらに、昭和58年から、熊谷警察署の嘱託教師として14年間にわたり指導を続けるとともに、自身も怠ることなく修練を重ね、全国健康福祉祭（ねんりんピック）に埼玉県代表として3回出場しました。

このように、卓越した情熱と指導力により、本市における剣道の普及、振興に寄与した功績は、誠に顕著であります。

なお、氏は多くの方々に惜しまれながら、平成21年11月に逝去されました。

熊谷市文化功労者

間 瀬 繁 雄 (77歳)

(芸名：野 呂 修 平)

熊谷市宮前町

氏は、昭和45年に熊谷市文化連合の理事となり、その後、洋楽部長、副会長を歴任し、平成14年には顧問に就任しました。この間21年の長きにわたり熊谷市文化連合の円滑な運営に尽力するとともに、組織の発展、加盟団体の育成に努力し、本市の文化振興に大きく貢献しました。

平成10年には、熊谷文化創造館「さくらめいと」の開館記念公演「バレエ・ジャズダンス」の上演に際し、舞台芸術の専門家として総括責任者を務め、成功に導きました。

平成19年には、本市の姉妹都市であるニュージーランドのインバーカーギル市から30名のダンサーを招聘し、熊谷文化創造館「さくらめいと」において市内ダンスグループとともに「B・J・Sダンスフェスティバル」を開催、実行委員会委員長として尽力し、本市の国際文化交流に貢献しました。

さらに、熊谷市文化祭においては、毎年意欲的なバレエ作品を上演し、市民に夢と感動を与えています。

このように、バレエを通して本市の国際文化交流に貢献するとともに、多くの優秀な後継者を育成し、本市を全国屈指のバレエ興隆都市として発展させた功績は誠に顕著であります。